



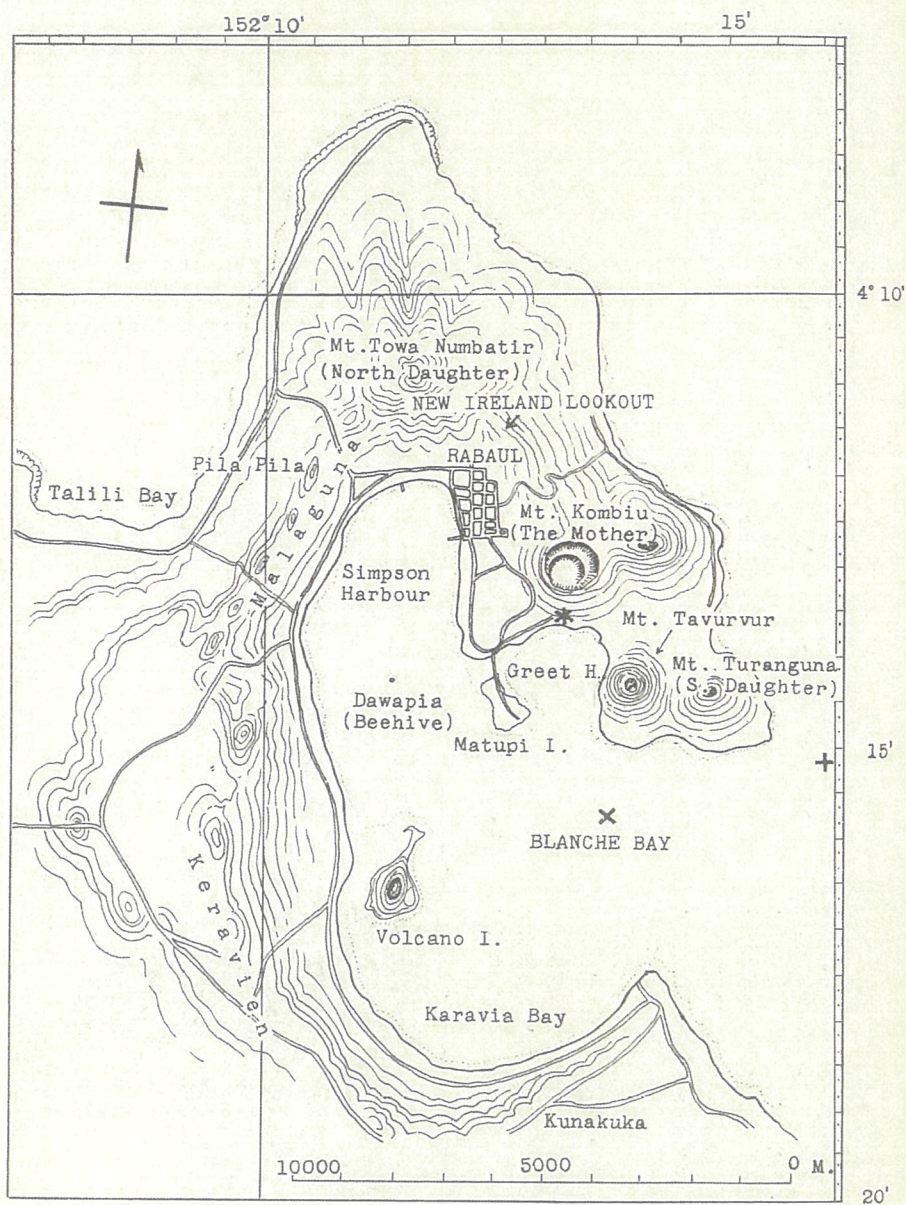
ラ
バ
ウ
ル
紀
行
(一)

羽 根 田 彌 太

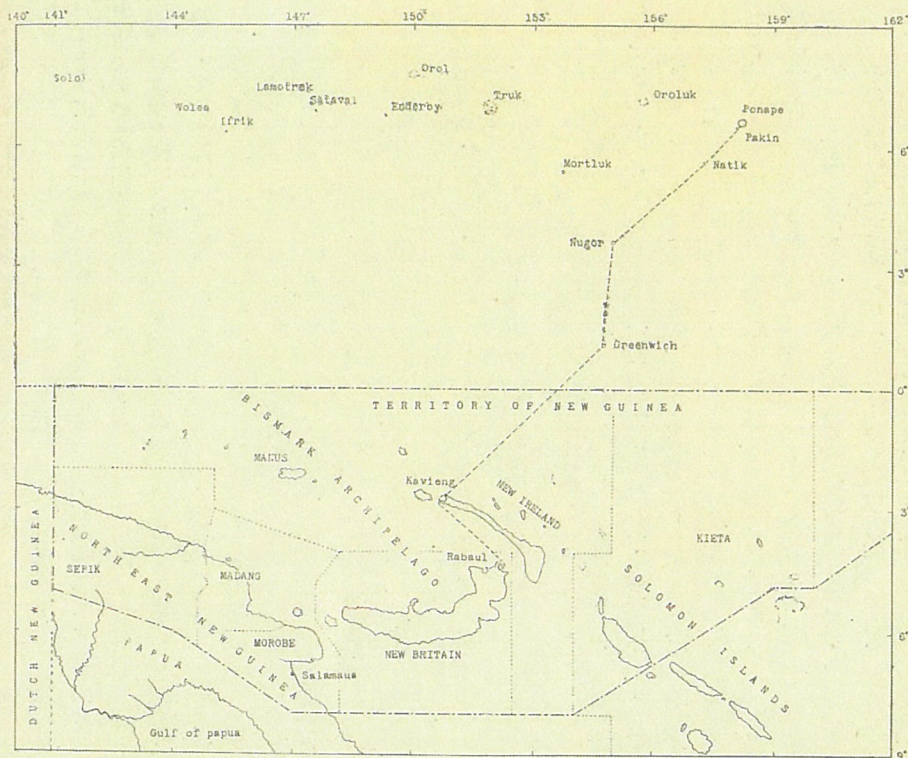
日本内地でニューギニアの話を開かされても、何となく現實味に乏しく、すぐ行つて見たいと云ふ氣持ちになれない。然し一度我が南洋の島々を訪れるとニューギニアは最早や夢の世界ではなくなる。赤道を跨いで一衣帯水の彼方に暗黒ニューギニアは、はつきりと現實に浮んで来る。私は一種神秘的な響きをさへ持つこのニューギニアと云ふ言葉そのものにも多少魅惑されてゐたかもしれない、兎に角ニューギニアへ行つてみたいと言ふ希望は絶へず懷いて居たが今年三月はからずも、その希望の一部が達せられた。ニューギニアの支關を一寸覗いてみると云ふ程度に過ぎなかつたが感激は今尙新たなものがある。

三月十一日午後四時南賀の高千穂丸にてポナペ港¹⁾を出帆、ポナペ南方離島であるパキン²⁾、ナチツク³⁾、ヌコール⁴⁾、グリーニツチ⁵⁾等の環礁に寄つて十五日には赤道を越へた。濠洲委任統治領ニューギニア⁶⁾の一部であるニューアイルランド⁷⁾島の北端の一部落ケビアン⁸⁾に着いたのが十七日の朝。更に南航、十八日午前十時ニューブリテン島のラバウル市¹⁰⁾へ上陸した。これが私にとつてニューギニアの地を踏んだ最初である。

- 1) Ponape 2) Pakin 3) Natik 4) Nugor 5) Greenwich 6) Territory of New Guinea 7) New Ireland 8) Kavieng 9) New Britain 10) Rabaul



第4圖 ラバウル市附近 (海圖より複製)

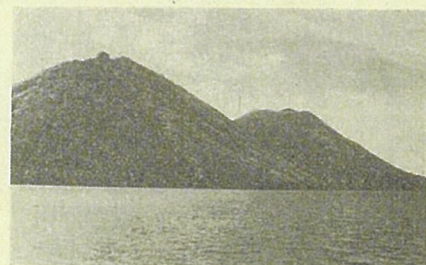


第1圖 濠洲委任統治領ニユーギニア



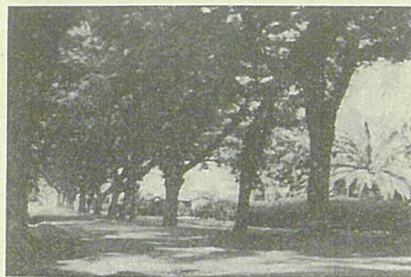
第3圖 ラバウル港

Simpson 灣自體が火口と言はれ水深く天然の良港であるラバウル市をこの寫眞の程度の小高い山が取り巻いてゐる。山の頂上を縫ふやうに小路がつき頂上よりの眺めは絶佳である。第5圖中のUの高千穂丸より撮影。



第2圖

South Daughter (前方) 及 Mother (後方)。第4圖+の地點より望む。



第 12 圖 ネムの木の並木路

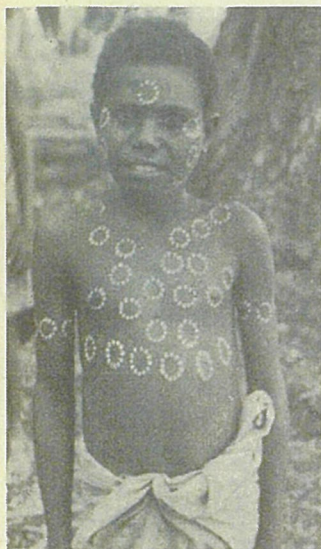
ネムの木が道路の中央に植へてあり、兩側の道路に涼しい熱帯の影を投げてゐる。第5圖 L の如く海岸に沿つて眞直に一本通つて居る。道路に沿つて清楚な住宅が見られる。



第 11 圖 New Ireland Lookout

ラバウル市を取り圍む山の頂上に New Ireland Lookout と云ふ立て札のある眺望絶佳な所がある、静かな海を隔て、New Ireland の山を望み、反對側は Simpson 灣を一望の許にラバウル市を足許に眺められる。第5圖はこの地點から見たのである。

に唯一つの光さへも認めぬいつまでも續く黒い島影を見てゐるとさすがにニューギニアだと、言ひ知れぬ興奮をさへ覺へる、それでも十二時近くに船室へ潛つた。翌十八日午前六時半目を覺した、船は既にニューブリテンの北端プランチエ灣¹⁾に入つてゐる。プランチエ灣は馬蹄形の灣で周圍には幾多の圓錐形の火山が見られる。灣口に近く右手にツラングナ²⁾ (一名サウスタ



第9圖 體に裝飾したラバウル附近の土人。模様は塗料で書いたものだ、ラバウル市附近ピラピラ海岸にて撮影。



第8圖 ラバウル港の高千穂丸

高千穂丸は N. B. K. の 342 噸餘、昭和十二年八月に建造されたカロリン丸の姉妹船である、セミディーゼル機關を持ち南太平洋航路に就航してゐる、客席四つあり。左手の棧橋は政廳の大棧橋で港内水深一萬噸級の船もつけられる。

と言ふやうにドイツ名で呼ばれてゐた。世界の狀勢の急激な進展と共に將來、極めて微妙な關係に置かれるであらうことは想像に難くない。三月十七日朝キビアンに入港、港内で税關吏の來るのを徒に二時間餘も待たされ、みすみす目の前に棧橋を見ながら拔錨を餘義なくされた。それでも棧橋には墨の様に眞黒な土人が赤い腰巻を纏ひ悠々と釣糸を垂れてゐる様、對岸のヌサリック島¹⁾から土人特有のカヌーを操り龍甲を密賣に來る土人の顔にも、さすがにニューギニアの片影が窺はれる。珊瑚の水道を船は右往左往して遂にニューギニアランドの北端を廻りガゼル海峽²⁾に出で終日低平なニューギニアランド北部の陸地を見ながら航海を續ける。その夜はデッキに出て、初めて見るニューギニアの屬島を淡い月光を通して飽かず眺めてゐた。海岸

1) Nusulick 2) Gazelle



第10圖 活火山 Tavurvur

大噴火口よりは絶へず水蒸氣を吐き盡しに硫黃の蒸氣が出てゐる、附近の海岸よりは温泉が涌出する。右手の山が South Daughter の麓、左手は Kombiu の舊火口のある山 (第4圖 Blanche 灣内×の地點より望む)。



第 13 圖

亭々たる木麻黄の並木通り。

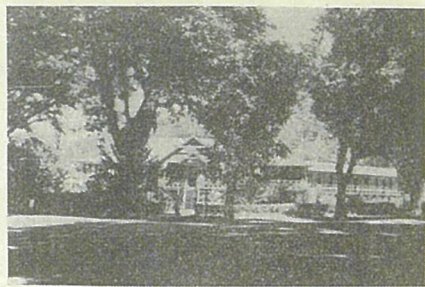


第 14 圖 木麻黄の並木通りより Cosmopolitan Hotel を望む。

ター) (一六二一呎) と活火山タヴルヴル³⁾、更に北に中腹に大きな舊噴火口を持つたコンビウ⁴⁾ (一名マザー) (二二四七呎) あり、ラバウル市の背後にトローナンパチール⁵⁾ (一名ノースドクター) (一七七八呎) が聳へてゐる。プランチエ灣の奥がシンブソン灣⁶⁾で一八七二年シンブソン⁷⁾がプランチエ灣を發見した時、この灣に投錨したのでこの名がある。この灣に沿つてラバウル市が發達してゐる。船が灣内に入るにつれて左手に熔岩の流れもくつきりと極めて新らしい火山を見た。この山は今から四年前に新しく出來た火山ウオルカノ島⁸⁾ (一名バ

1) Blanche Bay 2) Turanguna (South Daughter) 3) Tavurvur
4) Kombiu (the Mother) 5) Tova Numbair (North Daughter)
6) Simpson Harbour 7) Captain Simpson. The New Guinea Handbook, p. 5 8) Volcano

ルアン島¹⁾であつた。即ち一九三七年五月廿九日午後四時、突如低平なゾオルカノ島の一角から爆發、噴煙は天に押し翌日對岸の活火山タヴルブルも相應呼して爆發、火山灰はラバウル市

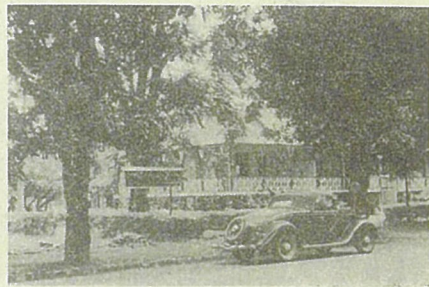


第15圖 土俗博物館

植物園の一角にある。第5圖Kのマンゴーの並木と同Lのネムの木の交はる所にある。農務局の附屬で Museum の看板がかゝつて居るが、主にニューギニアの土俗品が集めてある。右手の低い建物は農務局の一部である。

を廻つてゐた。

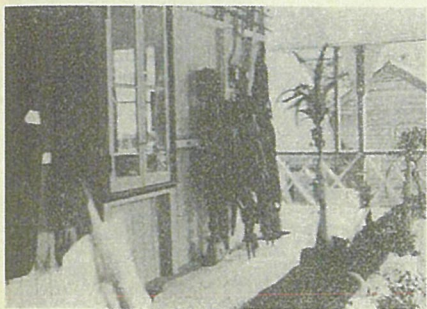
ラバウルに第一步を踏み感じたことは熱帯の都市として非常によく出来上つてゐる點である。街路樹一本にも一年中續く熱帯の暑熱をどうして防ぐかと言ふ心使ひがある。市街の大半がラバウル植物園で市街そのものが一つの公園の如き感がある。道路の中央に植ゑられた街路樹は兩側の道に大きな傘を擴げ無帽の快適な散歩を樂しむことが出来る。ネムの街路樹、マンゴーの並木、木麻黄の亭亭たる並木道路も素張らし、植物園も都市計畫もドイツ時代に計畫されたと言はれるが、これをよく育て上げた濠洲人の努力は亦敬服に價す



第17圖 圖書館

第5圖Kのマンゴーの並木通りにある。この通りはラバウル市の本通りで郵便局、銀行、劇場、百貨店、發電所、製氷所等もある。

を襲ひ爆發は六月三日朝まで續き低平なバルアン島は一週間にして圓錐形の熔岩の山と化したと言ふのである。今では山の頂上が壊れ臺盤状になつてゐるが、それでも當時の物凄かつた様を物語るやうに眠つてゐる。こんなにも新しい火山を間近かに通つてグワビア²⁾、一名蜂巢岩(ビーハイヴロック³⁾)を左に見てラバウル援艦に船をつけたのは十時



第16圖 博物館の内部

ア族と呼ばれてゐる種族である。ニューブリテンの奥地に蟠居してゐるものは、今尙原始と争闘の生活を續けてゐると言ふことであるが、ラバウルの土人は奴隸化し従順でビチンイングリツシニを話し、文化に浴してゐる。



第18圖

マンゴーの並木通りにある電氣會社。

- 1) Baluan
- 2) Davuipi
- 3) Beative Rocks



第19圖 鶴島氏の店

チャイナタウンにあり(第5圖N参照) N. B. K. の店と共に邦人のため萬丈の氣を吐いておられる。

る。ポナベ島にも同時代ドイツ人により街路樹が植ゑられ都市計畫もあつたと聞くが、間もなくドイツ人の手を離れ今ではコロニア公學校の近くと支廳の通りにマンゴーの並木が申し譯的に僅に残つて居るに過ぎない。海岸通りには家が狭く建ち並び見るからに暑つさう

だ。ポナベの様な大きい島にどうしてもう少し大陸的な都市計畫が出来なかつたものであらうか。

ラバウルの人口は一九三七年の調査に依ると約一萬五千乃至二萬、その中歐洲人七百、東洋人一萬、土人八千、その他となつてゐる。歐洲人は英人、濠洲人(ここで言ふ濠洲人とはオーストラリア土人の意味でなく、濠洲に流罪になつた英人の子孫)が大半を占めドイツ人、アメリカ人、オランダ人、その他あらゆる歐洲人が雜居してゐる。東洋人は支那人が大多数を占めて居るのは言ふまでもない。土人は墨より黒い皮膚を持つたブカ土人、淡褐色のニューブリテンの土人、そこへポリネシア、ミクロネシアまで雜居混血し、正に人種の展覽會場の觀がある。ニューブリテン各地に居る大多数の土人はバブオメラネシア族¹⁾と呼ばれる。この名稱はオーストロネシア語を話す移住民と、バブア語を話す原住民との混血した種族で、ニューブリテンで一般にバブ

ア族と呼ばれてゐる種族である。ニューブリテンの奥地に蟠居してゐるものは、今尙原始と争闘の生活を續けてゐると言ふことであるが、ラバウルの土人は奴隸化し従順でビチンイングリツシニを話し、文化に浴してゐる。

樹木鬱蒼たる中に清楚な住宅と官衙が點在し、火力發電所と製氷會社、郵便局、銀行、バーンズフライリツプ⁵⁾及カーペンター⁶⁾の二大百貨店一週二度開館する映畫館等々が點在する。マンゴーの並木通りが市街の目抜き通りでその北にチャイナタウンが一角を占め南洋貿易の支店、鶴島氏の店、伊藤氏の理髮店などあり。パンファイック⁷⁾、コスモポリタン⁸⁾、ラバウルの三ホテルもある。チャイナタウンもここラバウルでは極めて清潔で支那人町と言ふ感じはどこにも無い。植物園は市街の背後にあり市街と植物園を取り圍んで屏風を立てたやうに山が取り巻いてゐる。上陸早々南貨支店を訪れ田代清氏に案内されて土人の青物市場を見に行つた。ラバウルの



第20圖 Hotel Pacific

濠洲人の經營でチャイナタウンの一角にある。左手の家の隣が TSURUSHIMA STORE である。

- 1) Papuo-Melanesians
- 2) Austronesian
- 3) Papiuans
- 4) Pigeon English
- 5) Burns, Philip & Co. Ltd.
- 6) W. R. Carpenter & Co. Ltd.
- 7) Hotel Pacific
- 8) Cosmopolitan Hotel
- 9) Hotel Rabaul



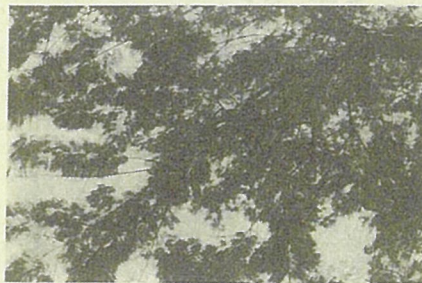
第 23 圖 土人青物市場

毎日午前中に開かれる。蔬菜類バナナ、パパイヤ、芋、トマト等が取引される。ラバウル市には魚市場がないので毎にこの市場に魚が出ることもあるが、極めて少なく土人が二、三匹程に通して持つて来る程度である。



第 24 圖

ラバウルの美人連、何れも妙齡の乙女である。



第 25 圖

螢が群るネムの木



- 1) Great Harbour
- 2) Havilland
- 3) Salamaua
- 4) Port-Moresby
- 5) Sidney
- 6) Taveau, B. N. Borneo
- 7) Davao, Philippine Is.
- 8) Sandakan, B. N. Borneo



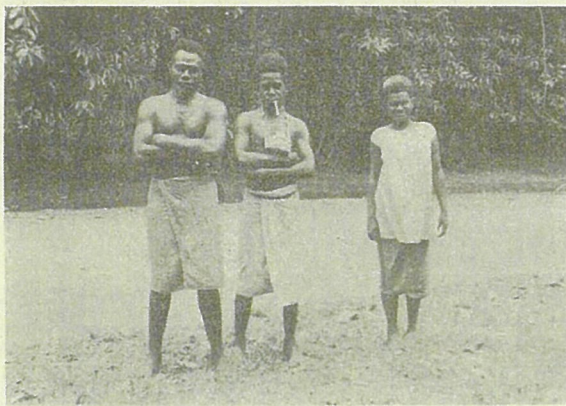
第 21 圖 チヤイナータウンにある中国国民党運包支部

青天白日旗をかかげ華僑の勢力は侮り難い。

當する) が貨幣の代りをする。午後雜貨貿易商として成功して居られる鶴島憲吉氏の運轉によつて土人病院ラバウル飛行場を見に行つた。飛行場はグリート¹⁾灣に面しゴルフリンクの傍にある細長い芝生と言つた感じで、飛行場らしくもないがラバウルと極めて近距離にあり將來性のある新飛行場である。目下カーペンター會社機²⁾ハビランド³⁾十人乗機が毎週一回ニューギニア本土のサラモア⁴⁾、ポートモースビー⁵⁾を経てシドニー⁶⁾に到る定期航空路に就航してゐる。

附近一帯の海岸からは熱湯が涌出してゐるが顧る者もない。先づ日本人が行けば温泉宿と飲食店、料理屋が建ち並ぶ所だ。

土人女は實によく働く。毎朝附近數哩の地から青物果實を頭にかけたバスケットに入れ持つて来るが賣れなければ投賣りもせず又頭にかけて持つて歸るさうだ。この市場での買物はカリフォルニア製のロープ煙草(黒密に漬けた繩狀の嚼煙草で一本六片邦貨三十五錢位に相



第 22 圖 ラバウルの土人

皮膚は淡褐色から暗褐色で頭髮は元來黒であるがモダンボーイやモダンガールは眞白に漂白してゐる。男は赤い腰巻一つ、女は簡單服用のものをまとつてゐる。

同夜植物園内に足を一步踏み入れて螢の壯觀な發光を見ることが出来た。熱帯地を旅行した人からよく聞くことであるが、螢が一本の木に無數に群り一齊に明滅すると言ふことである。私は一度この壯觀に出會ひたいと願つてゐた。昭和十三年二月タワオへの途中ダバオへ立ち寄つた時、太田興業の方からこの話を聞いたがついに見る事が出来なかつた。タワオ、サンダカンには約二十日餘居て螢を観察した

が、この様な習性を持った螢は一度も見なかつた、或は熱帯地を旅行した人の誇張した話ではないかと思つてゐたが、今度はからずもこの壯麗な螢を見たので觀察した要點を書き止めておく。この螢は七ミリの程の小さいもので翅は黒色、胸部の背面が赤く日本の姫螢の様で一見して何等特徴がないが、この螢が公園内のネムの木の葉に幾萬、幾百萬



第 26 圖

温泉の涌出する Greet Harbour の海岸より Volcano 島及 Matupi 島を望む。左手の椰子の密林が Matupi 島である。ここは Mother の舊噴火口の麓で活火山 Tavuvur の水蒸氣と麓の硫黄の煙が間近かに見へ海岸より熱湯が所々に涌出してゐる。第 4 圖*の地點より撮影。

と無數に止つてゐて或一定のリズムを持つて明滅してゐる。この光る一塊があちらにも、こちらにもと熱帯の暗黒の中に一齊に一定のリズムを持つて明滅してゐる有様は壯觀と言ふよりは一種神秘的な感に打たれる。大きな木になると木全體が一齊に明滅するのではなく、木の

の空瓶に二、三十づゝ入れて觀察した處、一定のリズムを以て一齊に明滅するのは雄のみであつて、雌には全くこの性質がなく各々勝手に緩慢な明滅をして居るのを知つた。木の下の芝の上には交尾したのが澤山居るが、交尾中のは雄の發光は極めて弱く而も殆んど明滅しない、かへつて雌が強く光つてゐるのを見た。尙この螢は晴天の夜も雨の夜も全く同じ様に明滅してゐた。一年中居るらしいがラバウルの人人は別に氣にも止めてゐない。

十九日は市内を見物、圖書館、百貨店を巡つて午後植物園の一隅にある農務局の附屬の土俗博物館を見學した。珍奇なニューギニア全土にわたる土俗品が陳列され、二、三の動物標品が列べてある。それか

抄 録

パラオ港外珊瑚礁沖に於けるマクロプランクトンの定量的研究

Moroda, S., 1938. Quantitative Studies on the Macropkankton off Coral Reef of Palao Port. Trans. Sapporo Nat. Hist. Sec., 15, 4, 242-246.

南洋廳水産試験場の委託によりパラオ港外珊瑚礁沖に於て昭和十一年十月より同十二月に至る期間に行ひたるマクロプランクトンの定量的研究の結果を報告す。採集は十日毎に行ひ、水深三〇〇、一五〇、

上部、中部、下部と云ふやうに二つ、或は三つの群をなして明滅する。明滅する回数は一分間約七十回程で而も光は瞬間的でバツと光つて直ちに消へ、又バツと光るので上の一群が光つて消へると中央の群が光り、次に下部と言ふ様に傳搬するので、丁度稻妻が木の上から下へサツと走る様だ。木の上から下へ、下から上に、斜上から斜下へと休みなく續けてゐる。この壯麗は實際見たものでなければ拙い筆では到底書き現はせぬだらう。強い懐中電燈の光をあてるとこの一定のリズムは亂れ光はまぢまぢになるが電燈を消すと間もなく又一定のリズムを以つて明滅するやうになる。螢は殆んど飛ばないが飛んで居るものはいく／＼と飛ぶのでなく空中の一定の場所に止つて居る。その有様は空中に浮游して居ると言つた方がいゝ。この浮游してゐるものが附近の木の葉に止つてゐるものと、小範圍の群を作りこれ又一定のリズムで同時に明滅する。尙又、この螢は雌雄によつて發光器が異つてゐるのみでなく光の色が違ふ。雌が緑色の光を出すのに反して雄は著しく黄色がかつてゐて、光の色だけで雌雄の區別がはつきりつく。同夜は南貨支店に厄介になつて約二時間置き位にこの木を見に行つたが遂に朝明るくなるまでこの明滅を續けてゐた。翌日正午この木を見に行つたが螢は烈々たる熱帯の太陽を受けてネムの葉の裏に無數に止つてゐた。十九日夜は高千穂丸船員諸君もこの壯麗な螢を見物に来て、ボナベに螢が居ないので輸入して螢の名所を作ると言つて歸航の時數百も採つて行つたが惜しいかなグリーンニツチ島附近で死んでしまつた。公園内に居た幼蟲を持つて行つたら成功したかもしれないと思つて居る。この明滅は何か生殖と密接な關係があるやうに思つたので雌と雄とを別々に分けて、その發光の有様を觀察してみた、ウイスキー

ら大急ぎで植物園を取り巻いてゐる山に登る。展望のきく所に *Zealand Lookout* の立札と日本風の東屋式の休み場があるニューアイランドが靜かな海に向ふに横はり、シンブソン灣、ラバウル市が一望の中にあり箱庭式の景色で暗黒ニューギニアと云ふ感じは全くない。政廳の發行してゐるニューギニア案内書に *the Naples of the South Seas* と言つてゐるが、山の上から見た感じは何となく明るく南日本の風景である。(一九四〇、一一、二〇〇) (以下次號)

▷ *The New Guinea Handbook*, p. 103.

五〇米各層よりの垂直採集をなす。採集網は最初ミユラーガーゼ三番製、口面積二六六平方種、布面積二三八〇平方種のものを使用せしが中途破損せる爲後半は晒木綿製、口面積同前、布面積五二七八平方種を用ひたり。

全期間に於ける結果は次の如く、パラオ沖のマクロプランクトンは極めて少量なる事を認めたり。

水	深	100—140米	150—200米	50—90米
全	個	115個	57個	123個
海	水	10立につき	22.10個	10.8個

(* 原著中の數字は計算の誤)

(元 田 茂)